

第2回横浜市港北スポーツセンター指定管理者選定委員会議事録	
開催日時	令和3年8月5日(木) 9時30分～12時30分
開催場所	港北区役所4階1号会議室
出席者	齊藤委員長、梅澤委員、大森委員、坂田委員、関委員 (計5名)
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者3名)※一部非公開
議題	1 応募団体の面接審査 2 指定候補者等の選定
決定事項	1 委員会の公開・非公開について 面接審査を公開とし、審議は非公開とすること 2 指定候補者の選定について (1) 指定候補者は「シンコースポーツ・東急プロパティマネジメント共同事業体」とすること。 (2) 次点候補者は「公益財団法人横浜市スポーツ協会」とすること。
議事録	<p>1 面接審査</p> <p>面接審査は公開とし、指定候補者及び次点候補者の選定(採点・審議)は非公開としたうえで、応募のあった2団体について、プレゼンテーション(15分間)及び質疑応答(20分間)を実施した。</p> <p>(1) 公益財団法人横浜市スポーツ協会</p> <p>委員：提案説明の中で港北区の高齢者は市内に2番目に多いと伺ったが、交通アクセスが良好とはいえない地域の高齢者は、施設へ足を運ぶという意識が希薄な部分もある。各地域へ出張して講座を開催するといったお考えはあるか。</p> <p>団体：これまでの取組の中で、区内の地区センターやケアプラザといった施設へ出向いて介護事業活動などを開催してきた。港北区において区内全域にスポーツ振興・健康づくり活動を進めるためには、地域へ出向いて運動をする環境を作ることが非常に重要であると考えている。</p> <p>委員：町内会といった単位でも実施可能なのか。</p> <p>団体：実施可能である。</p> <p>委員：地域の指導者も高齢化が進み人数も減少してきているので、そういった取組もぜひ期待したい。</p> <p>団体：指導者の育成も重要と考えており、当団体はスポーツセンターのスタッフのみならず、小規模な拠点で指導に従事できる人材を育成している。</p> <p>委員：地域への講師派遣等の事業費は、指定管理料から支出するのか。</p> <p>団体：指定管理料からの支出ではなく、事業費からの支出を想定している。具体的には、ヘルスプロモーション事業の中で計上しており、参加者に一部御負担いただいて、人件費と交通費を賄う想定である。</p> <p>委員：ウォーキング講座申込み手続きや派遣講師の経費は参加者から費用を充て</p>

ることで宜しいか。地域におけるウォーキングの取組はボランティアで行っていることもある。

団体：コロナ禍でも参加者の方に納得していただけるような付加価値の高いプログラムを進めていきたい。

事業としては、スポーツセンターで進めるものもあるが、当団体の地域連携担当が地域の方へヒアリングを行いながら進めるものもある。後者は地域の御要望を伺いながら取り組んでいきたい。また、地域での取組は継続していくことが大事であると認識しているので、地域からの御相談も承りながら進めていければと思う。

委員：現行事業者の運営から最も改善したいと考える点について、伺いたい。

団体：港北区は子供が多いことがフォーカスされる一方、急速な高齢者の増加が課題であると認識している。このため、スポーツ医科学センターと共同してヘルスプロモーション事業を推進していくことを新しい取組としたい。指定運動療法施設として厚生労働省から指定を受けることで、医療費控除が認められる事業ができるようになる。まずはこの指定を受けることに取り組んでいきたい。

委員：スポーツセンターに足を運んでくれる意欲的な高齢者の方はいいが、それが叶わない人たちにとってのアプローチはどう考えているか。

団体：コロナ禍で運動機会を失っているシニアについて問題視している。近隣の公共施設や公民館に出向いてシニア向けに特化したプログラムを開催し、できれば、施設へ足を運んでもらいたいと考えている。

今回の提案としては、こうほく区民施設協会との連携でスポーツセンターから地区センター等へ職員を派遣することで、活動の幅を広めていきたい。

委員：地域への職員派遣・アウトリーチについての提案といった外への視点も重要であるが、老朽化が進む施設のメンテナンスといった内への視点も重要で、内と外とのバランスを取り運営されることが重要と考えている。内部メンテナンスの方法について具体的に伺いたい。

団体：鹿島建物総合管理とパートナーシップを持ち、劣化診断という専門家のチェックをしたうえで修繕を図る。修繕計画としては、施設の外観や現地見学会で把握した内容を基に計画しているが、予算上は区役所の示した修繕費以上の金額を計上しており、事業によって得る収益を修繕費に充てることを想定している。

委員：マイノリティの方々への配慮について、配慮だけでなくその方々が積極的にスポーツへ参画する環境取組について、どのように現状分析されていて、具体的にどのように対応していくのか、伺いたい。

団体：障がい者のみならず、港北区は人口も多く外国人も多数いると想定しており、また、増えてきていると実感している。まずは、参加障壁のないハード面の整備に加え、障がい者施設ラポールと連携しながら、ソフト面でも利用者に対して優しく楽しめる施設運営を提供していく。

委員：例えば、トイレや更衣室といったスペースなどをマイノリティの方が使用

しようとした際に、法人としてはどのように対応しようとしているのか伺いたい。

団体：施設の使い勝手が悪いと繰り返しお越しいただけないと考え、ユニバーサルデザインを踏まえたサービス提供、具体的にはサービス介助士という資格を持った常勤職員を配置することで、行き届いた接客をしていく。

ホームページについては、事前に施設構造等を把握できるように改修し、施設が360度分かるよう対応していく。

LGBTの方への対応としては、体力相談室を更衣スペースとして転用することを考えている。

委員：Y-SDGsの取組について具体的な取組をお伺いしたい。

団体：トレーニングルームでの活動やスポーツ教室を実施することですべての方への健康の取組になると考えている。

また、施設の長寿命化、鹿島建物の劣化診断に基づいた修繕計画、これは施設を維持していくためのSDGsであると考えている。

地域への指導者派遣や、地域指導者の方々と共にスポーツ活動を実施することは、パートナーシップ持続可能社会をつくっていく取組であると考えている。私どもの日常的な活動がすべてSDGsに繋がっていくよう考えていきたい。

委員：SDGsで取り上げられる課題のうち3つに対して対応していくという認識で宜しいか。

団体：強調した取組としては3点を示しているが、17のすべての目標に合致するよう常に意識しながら活動していきたい。

委員：長寿命化について、鹿島建設とは、指定を受けた後に劣化診断を行い、その後修繕に取り組まれるという理解で良いか。

団体：指定を受けたのちに診断を行い、5年間のうちで計画的に対応していく。

(2) シンコースポーツ・東急プロパティマネジメント共同事業体

委員：第5次横浜市男女共同参画行動計画の関連資料では、女性スタッフの比率について64%との記載があるが、女性の意見をどのように吸い上げる場面があるのか、教えていただきたい。

団体：社内の制度として、会社全体または現場単位で吸い上げができる体制となっている。

委員：提案書では自主事業などの申込みについて、ハガキによる申込みとなっていたが、仮に指定管理者として指定された場合、ハガキ以外の申込方法を導入する考えはあるか。

団体：提案書では、ハガキと記載してあるが、オンラインレッスンの申込みも含め、インターネット上での申込みやキャッシュレス決済についても継続して取り組んでいきたい。コロナ禍も踏まえ、様々な申込方法を検討していきたい。

委員：コロナ禍において、どれくらい完全に休館していたのか。

団体：令和2年3月3日から6月3日まで。

委員：コロナ禍において、利用者の減少の程度と、収入減少の度合いを伺いたい。

団体：当初は利用控えもあったが、運動意欲の再燃や、他区スポーツセンターがワクチン集団接種会場になった影響もあり、稼働率は現在非常に高い値にまで回復してきている。

委員：コロナ禍で利用料金収入が減少している一方、収入増を果たすための計画について伺いたい。

団体：コロナ禍を踏まえると、来館しなくても施設を理解してもらえるように、例えば YouTube チャンネルの配信やオンラインレッスンの配信などで利用者が継続して運動していただく環境を引続き提供していきたいと考えている。

委員：施設へ足を運ぶことが困難な高齢者への健康促進について、今までの取組や、今後5年間の取組について考えを伺いたい。

団体：行政から健康づくり事業という取組を受託したり、公共施設へ出向いての運動教室や体組成計による健康チェックなどを実施している。各施設に出向いて行うものもあれば御自宅に訪問して行うものもある。コロナ禍において個人宅への訪問は難しくなったものの、電話でのやりとりを通じて健康状態をチェックするという取組も行った。

オンラインレッスンの開催にも取り組んでいる。昨年度は、スマホ教室・PC教室などオンライン教室のハードルとなっているPC操作について障壁解消に取り組んだ。事業に参加してもらえるような働きかけは継続して行っていきたい。

委員：高齢者や障がい者など、スポーツセンターにアクセスしづらい方もいると想定されるが、それぞれの地区に講師を派遣したり、教室を開催したりする事業も想定しているということでしょうか。

団体：提案書でも各施設へ出張派遣を提案している。各施設の御了解を得られれば、実現可能だと考えている。各施設へ足を運び、スポーツによる出会いや交流機会の促進をしていきたい。

委員：経費はどのように考えているか。

団体：収支計画上は自主事業経費の出張派遣の項目で計上している。

委員：施設職員にスポーツ推進委員がいるとの事で、出張派遣などにおいてスムーズに組織的な連携を図ることができると期待されるが、現状の地域との関与の実態について伺いたい。

団体：現状、菊名地区担当として月例会・駅伝実行委員会・競技研究会へ参加している。スポーツセンターの取組について周知するなどしているが、相互の連携性をさらに深められるよう引続き取組を継続していきたい。

委員：もう少し具体的な取組について、お伺いしたい。

団体：現在は、港北スポーツセンターとスポーツ推進委員との連携効果が見えづらい部分があると認識している。今後の継続した取組で拡大していける余

地があると期待しているので、地域の方と一緒に連携しながら深めていきたい。

委員：市民意識調査で散歩へのニーズを把握されているようだが、それに対しての提案がピンポイントすぎると感じた。すぐに実行可能な取組であるのか伺いたい。

団体：現在すでに行っている自主事業としてノルディックウォーキングがある。また、横浜市の取組であるウォーキングポイント事業にも参加している。スポーツセンターはウォーキング・ランニングステーション機能を有しているので、ウォーキング後に立ち寄られた方がシャワースポットとして御利用いただける状態にあり、今後も継続していきたい。

楽天シニアアプリを導入しており、歩いた歩数に応じて楽天ポイントがたまる仕組みも導入している。利用者には付与されたポイントで買い物が出来るといったプラス要素もあり、こういった環境整備は引続き整えていく。

委員：ステーション機能とは、遠方の利用者が車を駐車後、施設で着替えて、ランニングまたはウォーキングをした後にシャワーを浴びて帰るといった機能を指すのか。

団体：そのとおり。

委員：駐車場は有料か。

団体：2時間300円である。

委員：更衣室はどうか。

団体：更衣室とシャワーのみの利用者からは100円をいただいている。

委員：利用者数は如何ほどか。

団体：月2回程利用する固定の団体利用者がいるが、年間延べ100人程度である。コロナ禍でニーズも高まっており、一層の利用促進を図りたい。

委員：高齢者など、施設に来館しにくい方々へのアプローチとしてはどのように考えているか。現在、各地域ごとにウォーキングを行う取組もあり、そういった方への支援事業について考えを伺いたい。

団体：作成した動画を配信するだけでは伝わりにくい。走り方、歩き方、又は基礎動作といった動画をDVDにして配るといった取組を行っている。また、自主事業での講師派遣の対象とすることも想定している。

2 指定候補者の選定

- (1) 過去3か年の貸借対照表・損益計算表から各応募団体の財政状況はいずれも健全であることが確認された。
- (2) 事務局から、すべての応募団体について、市税納付状況の確認及び暴力団排除措置に伴う神奈川県警察への照会の結果、いずれの資格要件も満たしていることを報告した。

また、現指定管理者応募の有無、応募団体が「市内中小企業又は地域住民を中心に設立された団体」であるかについて報告した。

(3) 審議時、一度仮採点した後に、各委員が仮採点結果の考え方を表明し、その結果を踏まえて本採点し集計することを確認した。

(4) 採点結果

委員による採点を集約した結果、次のとおりとすることを決定した。

なお、全ての団体が最低基準点を満たした。

	団体名	採点結果
指定候補者	シンコースポーツ・東急プロパティマネジメント 共同事業体	443 点
次点候補者	公益財団法人横浜市スポーツ協会	407 点

資料

・

特記事項

1 資料

次第及びタイムスケジュール

2 特記事項

なし